カリエロ
CAGLIERO 11
サレジオ会宣教ニュース

210　2026年６月

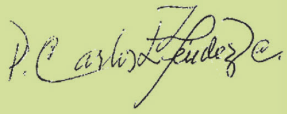
サレジオ会宣教部門による
サレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信

友人の皆さん、

現代は、ますますテクノロジーの優勢な世界になっています。私たちが高度につながった環境に生きているということは、誰にとっても驚きではないでしょう。新しいデジタル・メディアは、日々、より多くの情報を提供しますが、そうかといって私たちが周りの世界について、正確な、適切な解釈を受け取っていることにはなりません。このすべてのことのうちに浮かび上がる逆説は、情報が増大する一方、コミュニケーションが減っているということです。

コミュニケーションの最も深い意味は、2つの概念に結ばれています：communio、すなわち分かち合い、そしてcommunitas、共同体です。人間は本質的にコミュニケーションをとる存在です。考えを分かち合い、周囲の世界の本当の姿を解き明かそうとするものとして私たちは創造されました。しかしまた、共同体を築く、表面的にとどまらない絆を結ぶという挑戦にも、私たちは向かいます。

愛する兄弟姉妹の皆さん、私たちはキリスト者として、復活された主の体験を伝える使命を忘れないようにしましょう。主は父の真理を明かしてくださり、聖霊の恵みのうちに私たちを一つに結んでくださるのです。



■青少年司牧部門
カルロス・メンデス神父, SDB

宣教地で、チームとしてプレーする

FIFAワールドカップのような世界大会の高揚した雰囲気の中で、一つのことがはっきりします。一人で勝つ選手はいない、ということです。個々の選手が優れた能力を持っていても、チームが自動的に世界チャンピオンになれるわけではありません。個人の才能は輝きを放ちますが、それだけでは十分ではないのです。その才能は、**共同のプロジェクトに寄与する**ときに、はじめて十全に発揮されます。連携、戦略、相互の信頼、犠牲、ビジョンの共有が、最終的な勝利へ導くのです。

それと似たことが、宣教地で起こります。アマゾンの熱帯雨林のただ中に生きる宣教共同体であれ、大都会で働く教育司牧共同体であれ。共同体生活は、単に利便性のある組織なのではありません。青少年に仕える私たちの召命を生きる基本的な要件であり、確かな道なのです（会憲第49条）。教皇フランシスコがたびたび繰り返したように、**「一人で救われる人はいません……私たちは皆、同じ舟に乗っているのです」**。私たちは、他者と出会うために、共に歩むために、創造されています。キリストの上に築かれる真の「神秘的兄弟愛」の重要性を、教皇は強調しました。より大きな挑戦に立ち向かう宣教地では、「チームとしてプレーする」ことは選択肢ではなく、不可欠なことです。サッカーのように、一人ひとりに役割がありますが、それは常に共同の目標に寄与するものです。その目標は青少年の全人的救いであり、そのために神の愛のしるし、伝え手となります。ヨハネ福音書で、イエスは私たちに一致の遺言を残されました：「父よ、…すべての人を一つにしてください。…そうすれば、世は…信じるようになります。」（ヨハネ17・21）一致しているとき、私たちは信頼に足る福音のしるしとなるのです。

これが、私たちの最大の勝利です。チームワークがなければ、最高の選手も力を発揮できません。「あなたがたは知らないのですか。競技場で走る人たちは、皆走っても、賞を受けるのは一人だけです」（参照１コリント９・24）と、聖パウロが思い起こさせてくれるように。ワールドカップの最後に優勝杯を掲げるのは、ただ一つのチームです。しかし、宣教事業では、**真の勝利は金の優勝杯ではありません**。真の勝利は、若者たちが神の愛を体験できる、若者のための「神の場」となる、一致した共同体です。

■宣教顧問
ホルヘ・マリオ・クリサフッリ神父, SDB

振り返りと分かち合いのために

- 生活・人生のなかで、自分にとって、どのグループあるいは共同体が「神の場」－神の愛を手で触れるように体験できる場になっているだろうか？
- 周りの人との自分の関わり方について、神に何を願いたい？

スポーツ –
建設的な価値観を育てる活動

アントネッロ、今月号のテーマは、スポーツの価値についてです。スポーツの価値観とサレジオの価値観の間に、つながりがあると思いますか？

まず、ニュースレター「カリエロ11」でスポーツが取り上げられることをとても喜んでいます。スポーツは、さまざまな価値を育む活動です：力、勇気、技能、忠誠心、対話、奉仕など、これらは選手であれ運営に携わる人であれ、スポーツに関わる人なら誰にとっても中心となる価値です。今述べたものに、私は共同体の精神、結束力、包容力を加えたいと思います。一口に言えば、個人の内に始まり、他者に向かって開かれる活動です、たとえフィールドの上では互いに競い合う者同士であっても。そのため、聖ヨハネ・ボスコが体現し青少年に教えたすべては、スポーツ活動のうちに見いだされます。最近のSkyスポーツ・ドキュメンタリーで、ドン・ボスコが「青少年とスポーツの聖人」と紹介されていたのは偶然ではありません。我らが聖人の時代には、制度化されたスポーツはまだありませんでしたが、サレジオのオラトリオは、時を経ながら、スポーツを通した体験を含む教育的体験を、ごく自然な形で続けてきたのです。

今日のスポーツのスター選手を見ると、子どもや若者の主要なお手本となる存在でありながら、選手の多くにとって、お金と名声以上に大切なものがないかのように見えます。そのことをどうしたらいいでしょうか？

人間のあらゆる建設的な取り組みにおいてそうであるように、根本的な価値が踏みにじられることもあります。残念ながらスポーツも例外ではありません：当事者とその人の担う役目にそれは大きくかかっています。職業スポーツはゆがみではありませんが、それをスポーツにおける第一の目的、あるいは基準と見なすことがあってはいけません。それでも、多くの建設的なお手本を挙げることができます。残念ながら、「成長する森よりも、倒れる一本の木のほうが大きな音をたてる」のです。どうすればいいでしょうか。私たちはマネージャー、監督・コーチ、選手の育成に力を入れなければなりません：技術的なことだけに焦点を当てるのではなく、生活態度や、競争をどのように生きるかに目を向けること、対戦相手への敬意、勝利と敗北のどちらをも受けとめる文化を育てることに、絶えず努めなければなりません。

アントネッロさんご自身は何かスポーツをしていましたか、あるいは今もしていますか？　どのスポーツがいちばん好きですか？

若いころはいろいろなスポーツをやりました：バスケットボール、サッカー、卓球など。そして、自分にとっていちばんよい道は、若者の支援に貢献することだと気づきました。最初はコーチとして、その後、マネージャーとして。ここ最近は、大人のための運動教室に通ったり、水泳を楽しんだり、ローマの公園で体を鍛えるウォーキングをしています。好きなスポーツですか？　全部です！

サレジアニ・コオペラトーリ会員
アントネッロ・アッソーニャ

妻と2人の娘がいる。**国際関係**の修士号を持つ。カトリックの社会教説の実践に常に取り組み、労働組合と政治に関わる豊かな経験を持つ。1996年から**サレジアニ・コオペラトーリ会員**。スポーツでは、ローマのチェントチェッレ地区にある歴史的なスポーツクラブ、PGS*ボ**ルゴ・ドン・ボスコ**で育ち、2006年からその会長を務める。1998年から2001年まで、FIP**のラツィオ地域委員会の副会長。2019年3月から**PGS事務局長**。2022年にスポーツ功労賞ゴールドスターを受賞。

訳注
* PGS：Polisportive Giovanili Salesiane. サレジオ会にルーツをもつ、スポーツ振興を目的とした全国的団体。青少年の育成、地域スポーツの普及活動を行っている。
**FIP：国際パデル連盟　パデル：テニスとスカッシュの要素を組み合わせたラケットスポーツ。

フォーラム　世界の人気スポーツ

情報提供：www.FocusJunior.it

スポーツの人気は、アクセスのよさ、伝統、さまざまな地域にわたる文化的影響によって高まります。
サッカー：最も人気の高いスポーツ。世界中に約35-40億人のファンと選手がいる。
クリケット：アジア（インド、パキスタン）、英国、オーストラリアで非常に人気が高く、約25億人のファンがいる。
バスケットボール：米国、中国、ヨーロッパで広く親しまれ、20億人以上のファン。
水泳：アマチュア、競泳の両レベルで、約15億人。
そのほか、多くの人が親しむスポーツとして、テニス／パデル、バトミントン、卓球、バレーボール、徒競走、ハンドボール、自転車などがある。

6月 サレジオ宣教の祈りの意向

ボツワナ

スポーツ
スポーツの価値のために
（教皇レオ十四世の祈りの意向）

スポーツが、諸文化と諸国の間の平和、出会い、対話の道具となり、他者への尊敬、連帯、人格の成長を促進するものとなるよう、祈りましょう。
（サレジオ会の宣教の祈りの意向）